

堺市都心周辺の変遷

左上: 明治 18~20 年頃

環濠内に市街地が形成されており、街道沿いには集落が点在し、その周辺に農地やため池が広がっている様子が分かります。

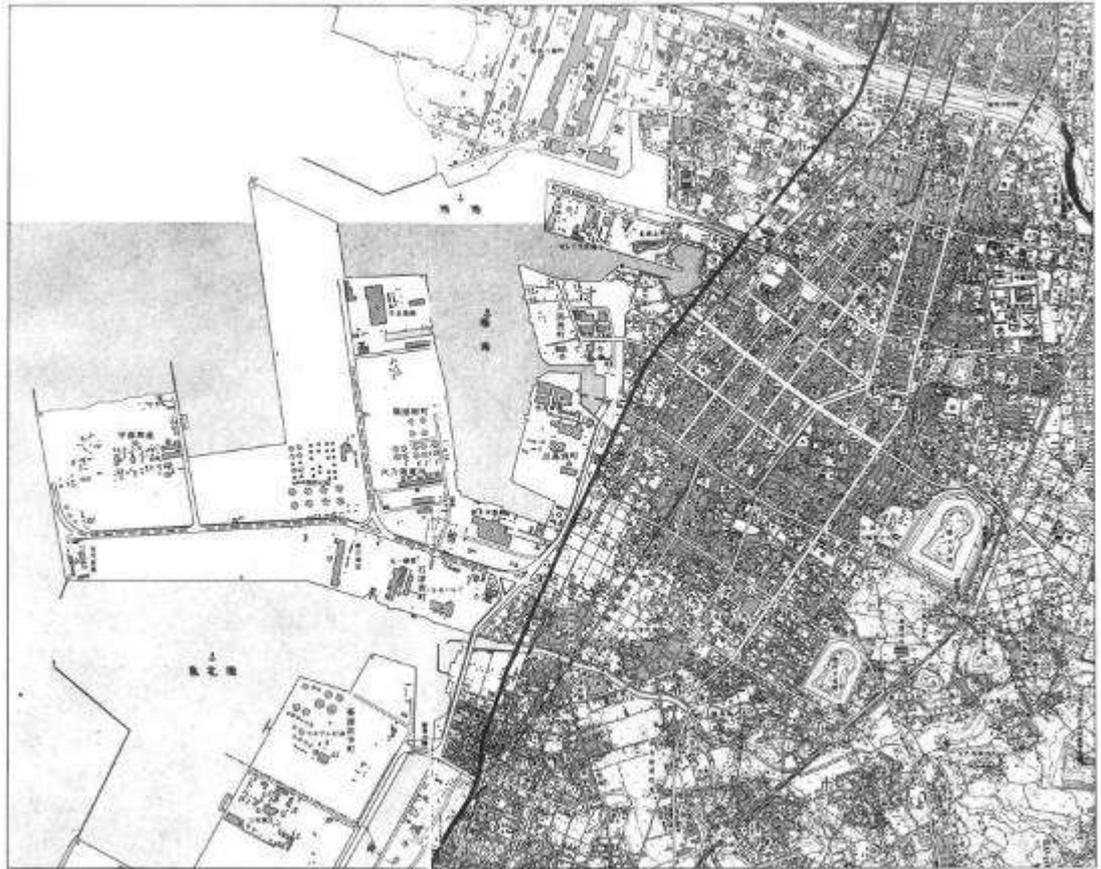
右上: 昭和 4 年頃

鉄道(国鉄・南海)が整備され、沿線(駅前など)を中心に市街地が外縁部に広がり、農地が減っていく様子が分かります。

左下: 昭和 22 年頃

市街地の大半が空地になっており、大空襲を受け消失した様子が分かります(この後、復興が進められていきます)。

また、周辺では耕地整理により、格子状の整形街区が形成されて農地が減り、ため池とともに宅地に変わっていく様子が見えます。



堺市都心周辺の変遷

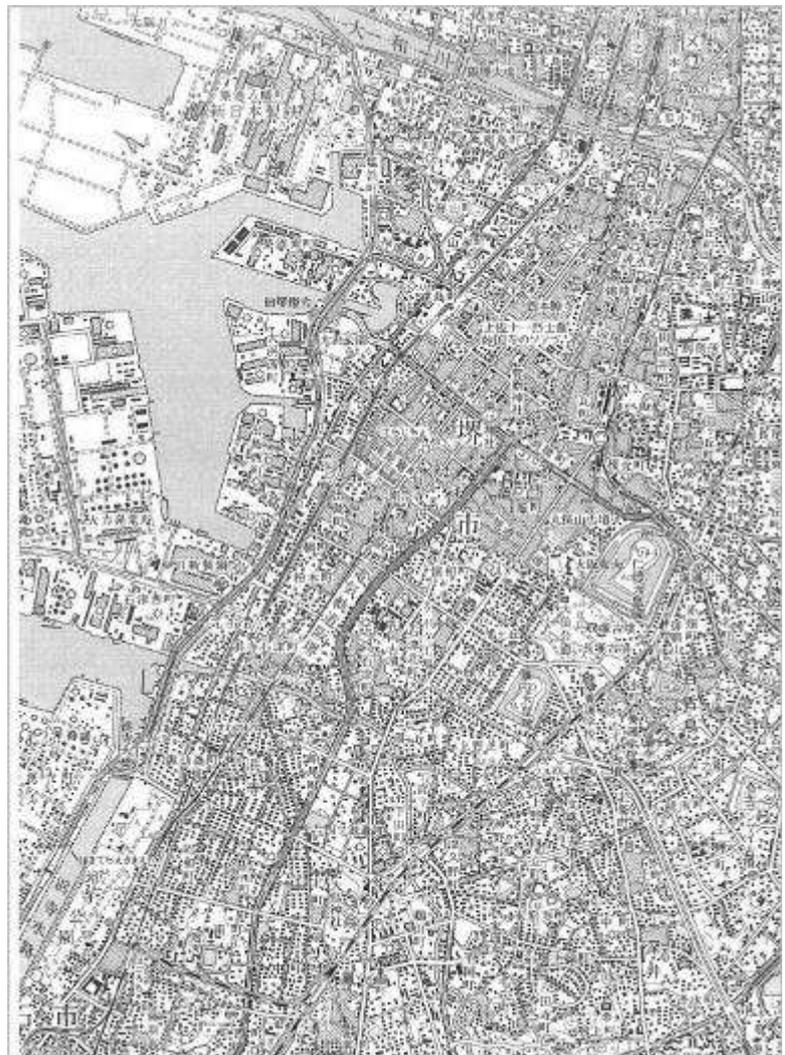
上:昭和 42 年頃

面的に市街地が広がり、街区内に建築物が建ち並ぶとともに、臨海部の埋め立てが進み工業地帯が整備されています。

下:平成 11 年頃

主要な幹線道路の整備が進められ、さらに市街地が広がって農地などが減少し、大半が市街地となっている様子が見えます。

出典:「近畿Ⅱ 地図で読む百年」に掲載の国土地理院地図を転載



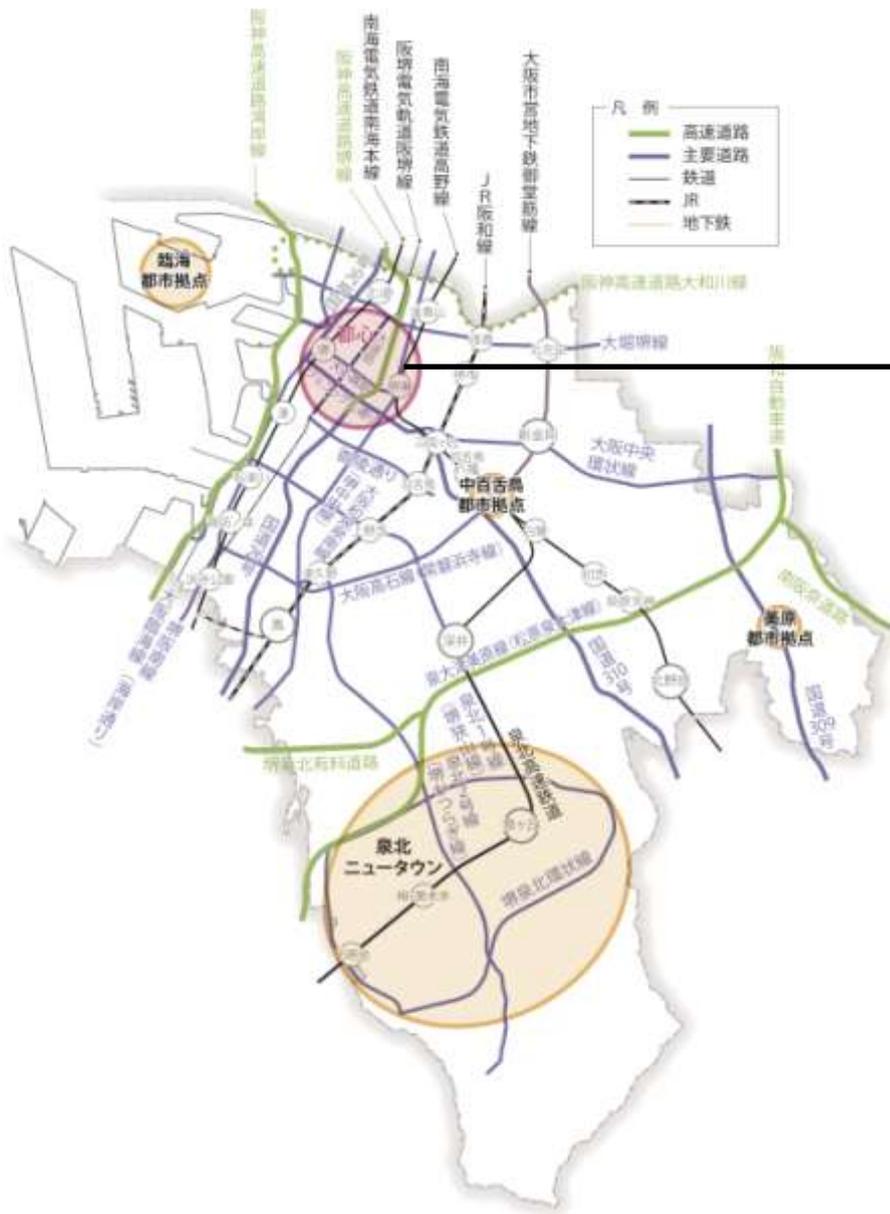
2) 拠点・軸の景観

市街化の過程で、駅前などを中心とした拠点の景観、あるいは幹線道路沿道・鉄道沿線の軸の景観が形成されました。これらの景観は日頃から人々の目につきやすく、市街地景観の重要な要素となっています。また、総合計画や都市計画マスタープランなどの市の計画においても、拠点・軸が都市構造を構成する重要な要素として位置づけられています。

拠点については、駅前における再開発事業や、臨海部における環境先進型の工場の立地、泉北ニュータウンにおける駅前の再整備、美原都市拠点、鳳駅周辺の整備などにおいて、新たな魅力と風格あるまちづくりが進められています。

また、軸についても、シンボルロードとして整備された大小路筋と、堺環濠都市地域の中心を南北に貫く大道筋、これと東西方向に交差するフェニックス通りが、都心の骨格を形成し、良好な景観形成に向けた先導的役割を果たしています。

【堺市の市街地景観】



中心市街地(堺駅前)



大小路筋



大道筋



フェニックス通り



都心の骨格を形成する軸

(4) 活動による景観特性

景観は、日々の暮らしや都市の営みの積み重ねにより形づくられます。また、目に見えるものだけでなく、そのまちの歴史や培われてきた文化、伝統が映し出されたものです。

南部丘陵や公園などの公共空間では、里山の保全や森づくりなど、自然景観の保全や創出の取組みが行われています。

また、歴史・文化資源を有する地域においては、寺社の祭礼や伝統行事、町家の活用や修景、まち歩きによる地域の歴史資源の調査・発掘など、歴史・文化景観の保全に向けた取組みもされています。

市街地においては、道路のイルミネーションなどにより演出される夜間景観の演出、歩道などの美化活動や緑化活動、公園などを舞台として開催されるまつりやイベントなどの取組みがされています。

このような活動による景観が、まちににぎわいをもたらし、魅力的な景観を創出しています。



祭礼や伝統行事の景観
(百舌鳥八幡宮のふとん太鼓)



ライトアップによる夜間景観
(大小路筋のイルミネーション)



イベントの景観(堺まつり)



けやき通りの美化活動